

第11号
平成29年5月18日
修善寺地域福祉
委員会
担当編集グループ
文責 ハラケイ

わがまち しゅぜんじ



S-MAP (エスマップ) ・しゅぜんじ地図のセです。

横瀬
修善寺古道をゆく
遠藤康博 (民生委員
わかまち通信委員)

※解説
修善寺が誇る歴史
研究家故相原隆三さんか
残した古道に関する一節を紹介する。

桂川
幡神社
大下地区では「急傾斜地崩壊対策事業」として、うなり石の少し横瀬寄りから大下公会堂までの間に擁壁を作ることを予定されている。この擁壁は古道に沿って作られるので実に興味深い。道というのは重機などない時代は歩き易いところを通っていたと考えられる。越路上に

むかし人はひたすら歩いた。
弘法さんも頼家さんも歩いて
この地にやって来た。地元の長老
に尋ねたところ古道は八幡
神社の裏から山を進み
うなり石の裏あたりから
上道を通り旧丸修スランド
ウエハシの前を通り半経寺
につながっていたという。あとは
半経寺の人にまかせます。

古道は横瀬の裏道から
八幡神社の裏山を超え、大下から
半経寺の裏道を通り半経寺で
また山越しをして下神戸の旧役場の
裏を通り神戸洞の公園道路(もちろん昔は細い道)
を経て戸田大沢、堀切へ抜けていた。この道から
修禅寺門前へ抜けていた。修善寺の根本より




裏道人生

畑の草むしりをしなから考えた。この仕事お寺の
借りに来た。レンタル山羊だ。小屋も用意した。
ところかこの山羊、草を喰わな。メエメエ声かなかな
うるさい。どうやらお寺でグル×生活を送って

おり舌が肥えていとみえる。でも
エゴでスローな暮しは楽しくもある。
孤独に耐え、鹿や猪もびびる強さを
もつ山羊アシ仲良くやろうぜ。(エンヤス)

学童疎開というものがあつた。
昭和十九年、米軍の空襲による
損害を最少限にする為、東京の
子どもたち七六大名がこの町にやってきました。

親元をはなれ集団生活。橋本屋丸久福寿館
などか公立小学校を、菊屋は学習院、野田屋、仲田屋
あさばには慶応幼稚舎(小学校)を分けて受け入れた。
慶応に関しては詳細な記録が残っているの
機会があればもう一度取り上げてみたい。

機会があればもう一度取り上げてみたい。


10月21日は着物の日
弘法さんはきもの姿の
オムパレードだった。湯汲み娘
はさることながら中・高年婦人
の着物姿が街にあふれ、実に
良き光景であった。タンスに眠る
着物をひっぱり出して
楽しく街にまわら
そう。

この秋、八十八ヶ所巡拝はリニエール
今までよく事故なくやって来られたと思う。眞
初日のお地藏さんでの昼ごはん、車の行きかう道路
をばさんでみそ汁を配ったり飯設トイレに行ったり。
このたび下神戸のご婦人方の大英断により、接待
場所を総合会館に移すことになった。お寺、
観光協会も快諾とのこと。何事もチンジ
には勇気かいる。誰かかその役をやらな
いと進歩はない。大いに讚えたい。

(あとがき)
修善寺古道について遠藤さんかレポ
してくれた。子供たちにも語り継いでい
ほしいものだ。修善寺で大勢の疎開児童を
受け入れたことについて私たちがはもと誇って良い。
慶応の疎開記念の碑かお寺の境内に建立されるという
記憶装置として機能することを期待する。寺前の店
梅燕亭で女主人の力リンさんか簡単中国語の教室
をひらくという。気楽に集まれる場だ。ではまた。(けい)

受け入れたことについて私たちがはもと誇って良い。
慶応の疎開記念の碑かお寺の境内に建立されるという
記憶装置として機能することを期待する。寺前の店
梅燕亭で女主人の力リンさんか簡単中国語の教室
をひらくという。気楽に集まれる場だ。ではまた。(けい)

